

人と人がつながり、  
笑顔で結ばれていく  
未来のために。

SGホールディングスグループ  
CSRコミュニケーションブック 2019

# 会長メッセージ



## ご挨拶

私たち SGホールディングスグループは、物流業は社会インフラの一部であると捉えてまいりました。当社グループの社会に対する宣言である「SGホールディングスグループ行動憲章」の中でも、お客さま、従業員、地域社会、株主、お取引先といった事業を取り巻くステークホルダーの期待に応えるステークホルダー経営を掲げ、さまざまな観点から持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進しています。

近年、物流業は社会インフラとして広く受け入れられつつあり、また幸いにして、社会情勢が激しく変化する中ではありますが、当社グループは堅調な経営状況を保つことができいております。これは非常に喜ばしいことである一方、業界全体に対する社会からの期待や要請がより大きくなっているという重責も実感しております。

この冊子は、グループの CSR 重要 7 課題に沿って、私たちが社会と当社グループを持続的に保つためにどのような取り組みを行っているのか、ステークホルダーの皆さまに網羅的にお伝えするものです。この冊子を通じて、さまざまなステークホルダーの皆さまとコミュニケーションを深めることができれば幸いです。今後とも、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

SGホールディングス株式会社  
代表取締役会長

栗和田 栄一

# CSRコミュニケーションブック

SGホールディングスグループでは、社会からの要請が大きく、当社グループにとっても重要度の高いものを、「SDGs(持続可能な開発目標)」を参考にしながらCSR重要課題として特定しました。本CSRコミュニケーションブックでは、7つの重要課題に沿って代表的な取り組みを紹介しています。

	安全・安心なサービスの提供	 	P.8
	環境に配慮した事業推進	 	P.10
	個性・多様性を尊重した組織づくり	 	P.12
	総合物流ソリューションによる新しい価値の創造	    	P.14
	地域社会への貢献	    	P.16
	サステナブル調達への推進	   	詳しくは詳細版に掲載
	責任ある経営基盤の構築	  	

## SDGs(持続可能な開発目標)とは

「Sustainable Development Goals」の略。2015年9月の国連サミットで採択された、持続可能な社会を創るために世界各国が2016～2030年の15年間での達成を合意した17の目標と169のターゲット。企業にも目標達成に向けた対応が求められています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# SGホールディングスグループ CSRステートメント

2017年度に特定したSGホールディングスグループの「CSR重要課題」を土台として、当社グループがCSRに取り組む「意義」「考え方」をわかりやすく示した「CSRステートメント(声明)」をまとめています。

このステートメントは、私たちSGホールディングスグループが、物流を通じて社会とどのように関わっていききたいか、そして、どのような価値を社会に提供していききたいかを明文化したものです。

日々の業務の中や事業計画の策定時などに、立ち戻るべき指標のひとつとして活用してまいります。

## 『今日をスムーズに、明日をスマートに。』

今日、私たちが全力で取り組んでいるのは、  
物流で人びとの暮らしをスムーズにすること。

それは、

「物流というインフラ」を安全に、ゆるぎなく提供すること。

地球環境と共生し、豊かで幸せな暮らしを守ること。

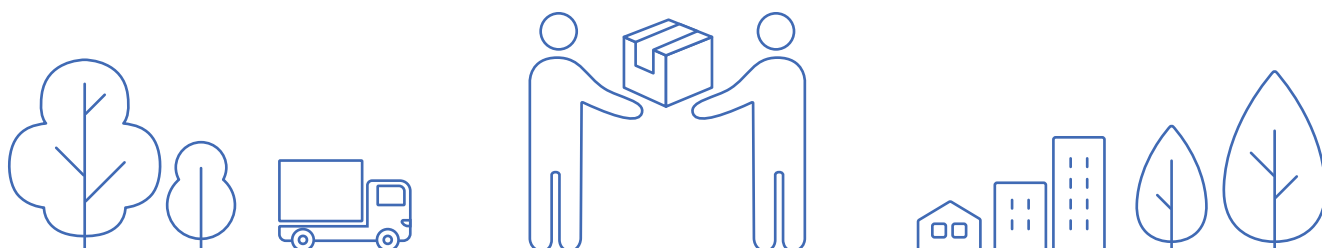
そして、

総合物流ソリューションの力で新しい価値を創造し、

今よりもスマートな明日をつくりたい。

人と人がつながり、笑顔で結ばれていく未来のために、

「SGホールディングスグループ」は、事業を通じて社会に貢献しつづけます。



# 社長メッセージ



## アジアを代表する 総合物流企業グループを目指して

2019年4月1日付で、SGホールディングス株式会社の代表取締役社長に就任いたしました。変化が激しい時代ではありますが、長期ビジョン「アジアを代表する総合物流企業グループへ」の実現に向けて、一歩ずつ歩みを進めていく所存です。

2018年度を最終年とする前中期経営計画「First Stage2018」では、グループ横断の先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「GOAL」(GO Advanced Logistics)などを起点として、物流の全域に渡るソリューションの提供を強化してきました。また、物流品質の維持・向上と適正運賃の収受に加えて、従業員の働き方改革や協力会社と連携した輸送インフラの強化を行い、一定の成果をあげています。

## 総合物流ソリューションの進化と 経営基盤の強化を目標に

これらを受け、2019年度からの中期経営計画「Second Stage2021」では、「総合物流ソリューションの進化」と「経営基盤の強化」を重点領域としています。「総合物流ソリューションの進化」では、セールスドライバー<sup>®</sup>がお客さまとの対話の中から「情報」をキャッチし、抱えている課題解決に向けた提案を行えるよう教育を行っていきます。加えて事業会社の専門性を

高めることで、お客さまへの提案領域を拡大していきます。「経営基盤の強化」における重要施策の一つは、2020年2月に予定している東京都江東区の新物流センター開設です。この拠点は中継センターとして宅配便のキャパシティ拡大に貢献できるほか、3PL、国際物流、大型商材の物流機能も同時に担うため、各機能の有機的な統合による新たな付加価値を創出することができます。また、グローバルで9万人以上の従業員を擁するグループとして「人」を中心に位置づけ、多様な人材が活躍できる職場環境の整備を進めていきます。

## 持続的な成長を見据え SDGsへの貢献を重点施策に

当社はこれまでも、事業活動を通じて社会課題の解決に貢献しており、これらは世界的に合意されたゴールであるSDGsの達成につながるものです。そこで「Second Stage2021」では重点施策として「SDGsへの貢献」を掲げました。今後は、当社グループのCSR重要7課題に対して、より方針や目標を明確にしながら取り組んでまいります。特に、環境と人材の活用は優先して取り組むべき課題だと認識しています。人材に関しては先に触れたとおりですが、環境に関しては、2019年5月にTCFD<sup>\*</sup>の提言に賛同し、今後、気候変動が事業に与えるリスクと機会をより深く検証してまいります。加えて国際的な要請事項である、人権や腐敗・汚職についても、ビジネスパートナーと協力しながら歩みを進めていく所存です。ステークホルダーの皆さまにおかれましては、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※TCFD:金融安定理事会(FSB)により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース」のこと。年次の財務報告において、財務に影響のある気候関連情報の開示を推奨する報告書を2017年6月に公表

SGホールディングス株式会社  
代表取締役社長

荒木 秀夫



環境に  
事業

P.

安全・安心な  
サービスの提供

P.8

7  
つの



責任ある  
経営基盤の構築

詳しくは詳細版に掲載

人と人がつながり、  
未来の  
「SGホールディング  
事業を通じて社会に

サステナブル  
調達の推進

詳しくは詳細版に掲載

配慮した  
推進

10

個性・多様性を  
尊重した組織づくり

P.12

# 重要 課題

笑顔で結ばれていく  
ために、  
「グスグループ」は、  
貢献しつづけます。

総物流  
ソリューションによる  
新しい価値の創造

P.14

地域社会への貢献

P.16





# 安全・安心なサービスの提供

WHO（世界保健機関）の調査によると、  
 世界では毎年120万人以上の方が交通事故で死亡しており、  
 国連による持続可能な開発目標「SDGs」でも、“2020年までに世界の道路交通事故による  
 死傷者を半減させる”という目標が掲げられています。  
 SGホールディングスグループは、約27,000台の車両を保有し  
 公道を使って事業を行うグループです。  
 私たちは物流という社会インフラを担う者として、  
 交通事故や渋滞による社会への負の影響を最小化していくことが重要であると考えています。



2018年度は全国で741回実施

## 小学校で交通安全教室を開催



優しい言葉や身振り手振りで、  
車の危険性を伝えます

佐川急便株式会社 江東営業所 セールスドライバー®  
ながみ ゆうき  
永見 雄基さん

佐川急便のトラックを使って、小学校の校庭で子どもたちに「車の死角」について伝えていきます。「運転手さん、本当にそんなに見えないの?」と最初は疑っていた子どもたちも、運転席に座って実際に視野の狭さを知ると驚いている様子でした。元々教師を志望していた時期もあり、教えることが好きなので仕事を通じて社会に貢献できるのは嬉しいですね。会社の看板を背負いながら町を走るの、常に誰かに見られている意識で安全運転を心掛けていますが、子どもたちに教えてからはさらに気を付けてハンドルを握るようになりました。人にも荷物にも優しい運転を続けたいと思います。



## 資格保持者による継続的な指導 安全教育の徹底

佐川急便が新規採用したドライバーは、安全運転のための研修や指導を受けた後、検定に合格して初めてセールスドライバーとして立ち立ちます。さらに業務開始後も安全運転が継続できるよう、定期的に指導が行われます。また、研修や検定を行う指導員や検定員も社内認定資格(佐川ライセンス)取得を必須としており、全ドライバーに対して同じ水準の教育が施せる仕組みになっています。さらにこの指導員や検定員に対しては定期的に研修を行い、現場で必要とされる教育が常になされる体制を構築しています。







安全啓発を目的に毎年開催

## ドライバーコンテスト

佐川急便では、ドライバーの交通安全意識と運転マナーの向上を目的として、毎年「ドライバーコンテスト」を開催しています。この取り組みを通じ、一人ひとりのドライバーに交通法規を遵守することの大切さを伝えるとともに、交通事故撲滅に対する意識を高め、運転技術や点検技術の向上につなげています。27回目を迎えた2019年度のコンテストでは、日本全国で予選を勝ち抜いた76名が、交通法規・点検・運転技術の3科目で競い合いました。



さまざまな安全装置やサービスを導入

## ドライバーの安全を支援する取り組み

SGホールディングスグループでは、さまざまな安全補助装置を導入しています。保有車両のドライブレコーダー搭載率は、佐川急便73.5%、SGムービング100%。またSGシステムでは自動車運行における各種情報を蓄積・分析できる「テレマティクスクラウドサービス」を提供しており、安全性の向上に貢献しています。さらにワールドサプライでは、2017年度に簡易型ドライブシミュレーターを導入。ドライバーの適性診断や危険予知トレーニングに活用しています。

会社名	車両保有台数 (運送事業用)	ドライブレコーダー 搭載台数	搭載割合
佐川急便	26,671台	19,610台	73.5%
SGムービング	74台	74台	100%
ワールドサプライ	135台	未導入 (2019年度より対応予定)	

海外拠点での安全対策

## 海外での取り組み

SG佐川アメロイド(シンガポール)では、2015年より安全委員会を設置し、交通事故防止に努めています。ウェブポータルシステム(事故等報告システム)や、運転モニタリングなどを目的とした高解像度車載カメラなど、機器の導入も進めています。またエクスポランカグループ(スリランカ)のエクスポランカ・フレイト(EFL)では、配送サービスの安全性向上を目指した社内教育「道路安全プログラム」を実施しました。これにより、従業員の安全意識を高め、常に交通安全に努める文化を醸成していきます。





# 環境に配慮した事業推進

世界での人口増加や経済発展に伴う環境負荷増大を背景に、人間活動によるCO<sub>2</sub>排出の実質ゼロを目指す「パリ協定」や、持続可能な世界の実現を目指す「SDGs」が2015年に採択されました。これを受け、各国の政府だけでなく経済活動の主体である企業にも積極的な関与が期待されています。

SGホールディングスグループでは、多くの車両を使用する物流事業者として、環境負荷低減に取り組むことは大きな責務であると認識しています。

そのため、環境理念・環境方針を掲げ、「気候変動」「資源循環」「自然との共生」といったテーマに対して、さまざまな取り組みを行っています。



未来を見据えたリバースロジスティクス

## 車載用リチウムイオンバッテリーの収集運搬



増加する使用済みバッテリーの  
適正回収は急務です

SGムービング株式会社  
本社 営業部 営業開発課 課長 **村原 貞芳** さん

2018年より、ハイブリッドカーなどの車載用リチウムイオンバッテリー収集運搬業務を受託しています。社会経済活動においてどうしても発生してしまう廃棄物ですが、広域認定制度\*を利用した自動車メーカー共同回収スキームにより、収集時の環境負荷低減にも繋がる、効率的な回収が可能となりました。全国で同じサービスを提供するために、管理表の取り扱いや連絡体制を整えるなど、運用ルールを徹底するのに苦労しましたね。全営業所でパートナー企業を含めた勉強会を開催し、関係者の理解を深めることで、時間をかけて体制を築くことができました。

\*広域認定制度とは、環境大臣から認定を受けたメーカーが自社製品の廃棄物の処理を広域的に行うことにより、当該廃棄物の減量や適正な処理の確保を目的として、地方公共団体毎の廃棄物処理業の許可を不要とする環境省の特例制度。



電動アシスト自転車試用開始

## 「TRIKE CARGO」の導入

佐川急便は2018年度、牽引タイプの集配用アシスト自転車「TRIKE CARGO」を全国10か所でトライアル導入しました。集配用電動アシスト自転車はCO<sub>2</sub>を排出しないため、環境に配慮した輸送を実現できます。また、積載可能重量が最大150kgと一度に多くの荷物を運ぶことができるため、集配拠点間の複数回の往復を軽減できるなど作業効率の向上にもつながります。今回のトライアルでは約1か月間、本格導入に向けての安全性・集配業務の効率化検証を行いました。結果をふまえて、今後の導入を目指していきます。





## 太陽光発電システムを活用 環境配慮型の物流施設

SGリアルティでは、電力の安定供給と環境負荷低減につながる物流施設の開発を行っています。現在、太陽光発電設備のあるグループの配送拠点・流通センターは全国に99施設にのびります。また、2018年2月に竣工した「SGリアルティ和光」(写真)においては、最新の自家消費型太陽光発電システムを導入しており、太陽光パネルによる自然エネルギーの創出によって年間エネルギー消費量を低減しています。これにより、「DBJ Green Building 認証制度」と「建築物省エネルギー性能表示制度」において、ともに5つ星(最高ランク)を獲得しました。



## 電気トラックや大型LNGトラックも 環境対応車の導入

SGホールディングスグループは、環境に配慮した車両の導入を推進しています。CO<sub>2</sub>、NOx(窒素酸化物)、PM(粒子状物質)の排出を抑制する天然ガストラックや、燃料消費を抑えられるハイブリッドトラック、電気自動車を導入しています。また2018年6月から、日本の運送業界初となる大型LNG(液化天然ガス)トラックの試験走行に協力。LNGトラックは、ディーゼルトラックと比べてCO<sub>2</sub>排出量を約10%削減することが可能です。さらに佐川急便では2019年4月から、電気トラック(写真)の試験運用を開始しています。



## 子どもたちに向けたさまざまな活動 次世代への環境啓発

SGホールディングスグループでは、次世代を担う子どもたちを主な対象とした、環境コミュニケーション活動にも取り組んでいます。「佐川急便 高尾100年の森(東京都)」での自然体験学習(写真)や滋賀県守山市での稲作体験学習には、毎年多くの子どもたちが参加しています。また小学校や幼稚園向けに「環境出前授業」も実施。佐川急便の物流を通じたエコ活動、森林保全活動について、クイズや実演を交えて紹介しています。さらに小学生を対象とした、「全国エコ絵画コンクール」も開催しています。





# 個性・多様性を尊重した 組織づくり

我が国においては少子高齢化による労働人口減少によって、働き方改革の推進が社会的な課題となっています。

また、経済活動がグローバルに拡大する中、国際社会では国連による持続可能な開発目標「SDGs」でジェンダー平等といった目標が掲げられるなど企業にも人権尊重への取り組みが求められています。

SGホールディングスグループは、世界で約90,000人が活躍する企業グループとして、ダイバーシティ&インクルージョンやワークライフマネジメントを取り入れた新たな雇用・労働システムの構築、バリューチェーン全体を通じた人権尊重を推進しています。



## 受け入れ体制の整備

### 多様な人材が活躍できる職場



整備士としてすべての作業に精通した人になりたいです

SGモータース株式会社 東京店 バニヤ・アミトさん

母国ネパールでボランティア活動をとおりて日本人と知り合ったことをきっかけに来日し、日本語学校を経て整備専門学校を卒業しました。SGモータースに就職した理由は、外国籍の学生に向けた説明会など、受け入れ環境が整っていたからです。現在は2級整備士として小型から大型までの車検整備を行っています。車両整備に関わる専門用語はまだ難しく感じることもありますが、将来はより高度な車両修理などを行えるようステップアップしたいです。さまざまなバックグラウンドの方が働いているからこそ、互いの理解を深めるために積極的なコミュニケーションを心がけています。



## シルバー人材への宅配業務委託 北九プロジェクト

佐川急便の北九州営業所では、車両を使用しない配達業務の一部を北九州シルバー人材センターから派遣されたシルバー人材に委託しています。本取り組みは、2017年8月、北九州市と高齢者活用の観点で三者連携協定を締結し社外パートナーを活用した集配体制を確立する取り組みの一環として開始されました。配達員は、小規模拠点である宅配デポから台車や自転車です小型荷物・メール便を配送。集配エリアを細かく区切り地域密着型にすることで、シルバー人材の就労支援とお客さま満足度の向上の両方を実現しています。





## 一人ひとりが輝ける環境づくり D&I(ダイバーシティ& インクルージョン)の推進

SGホールディングスグループは、多様な価値観を尊重し競争優位性の高い企業へと発展するために、D&Iの推進に取り組んでいます。特にダイバーシティの中でも女性の活躍推進を重要課題のひとつと捉え、管理職候補の女性社員を対象にした「女性キャリア支援研修」を実施しています。また、女性参画による新規ビジネスの創出などの成功事例をグループ内で水平展開するための表彰制度「ダイバーシティアワード」の実施など、キャリア支援や風土改革の取り組みを行っています。

**DIVERSITY AWARDS 2018**  
ダイバーシティアワード2018



## 業務効率化に向けた取り組み RPA導入による 定型業務の自動化

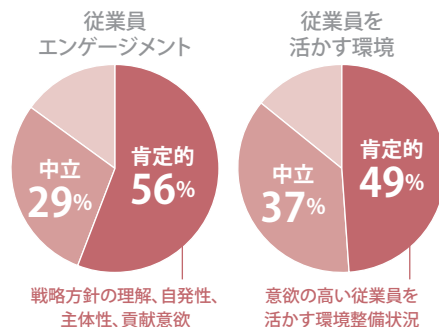
SGホールディングスグループでは、データの集計や管理といった定型化された業務の自動化を目指し、RPA(Robotic Process Automation)の頭文字。ソフトウェアロボットが、業務プロセスを自動化することを導入しています。その結果、生み出された時間を創造的な別の業務に充てることできるようになるなど、効果が上がっています。今後もRPAによる業務効率化に向けて、導入・開発における標準化やルール(ガイドライン)の整備および業務自動化を推進する体制を確立し、RPAが担う業務範囲をさらに拡大していきます。

グループ各社によるRPA導入の2019年3月度実績  
(自動化時間分/月間)

佐川急便	297時間
佐川グローバルロジスティクス	220時間
SGフィルダー	1083時間
SGエキスパート	729時間
SGシステム	485時間
計	2814時間

## 従業員へ意識調査を実施 従業員エンゲージメント

SGホールディングスグループでは2013年から年1回、国内グループの従業員を対象に、会社・仕事への満足度を測る調査を実施してきましたが、2018年度からは組織力向上や事業成長につなげるため、会社と従業員の結びつき=エンゲージメントを測る調査に刷新しました。全体で15ある調査カテゴリーのうち、特に会社の戦略方針への理解や自発性、主体性、会社への貢献意欲を測る指標である「従業員エンゲージメント」と、意欲の高い従業員を活かす環境整備状況を測る指標である「従業員を活かす環境」を重視しています。





# 総合物流ソリューションによる 新しい価値の創造

日本の物流事業全体の市場規模は約26兆円で、  
このうち、トラック運送事業の市場規模は約15兆円（2015年度）といわれるなど、  
SGホールディングスグループのビジネスは社会に欠くことができない機能のひとつです。  
一方、物流事業は国内での少子化・高齢化による人手不足や、  
世界的な環境負荷低減への要請の高まりなど、さまざまな社会課題に直面しています。  
当社グループでは、物流の効率化と人手不足や気候変動の課題に取り組むことは  
社会インフラを担う事業者としての責務だと考えています。  
また、国際一貫物流や特殊配送など、オーダーメイドのサービスを提供することで  
お取引先と連携して社会に新しい価値を提供していきます。



月間8,400時間分の入力作業を削減

## AIを活用した配送伝票入力業務の効率化



現状に満足せず、  
さらに精度を  
高めていきます！

SGシステム株式会社  
関東BPSセンター  
BPO事業部  
BPS第一ユニット  
ユニットマネジャー  
みやまえ ひでとし  
宮前 英俊さん



SGエキスパート株式会社  
シェアードサービス部  
経理サービス課  
請求担当  
おた けいこ  
係長 太田 桂子さん

AIを活用し、手書き配送伝票の読み取りと管理システムへの入力を自動化しました。実装に向けて数百万のデータを目視でチェックしながらAIに学習させる作業が大変でしたが、実作業を担うSGエキスパートと連携し、約40人で作業を行うことでスピーディーな開発ができました。従業員がさらにコア業務に注力できるようになると嬉しいですね。



人手不足が進む中で生産性向上は重要な課題です。AIに入力作業を任せられるようになり、業務の効率化や労働時間の削減につながりました。通常業務と並行しての共同開発は大変でしたが、グループ連携により実現できたと思います。

経路案内ツールによる生産性向上

## 「Visual Warehouse®」の導入

佐川グローバルロジスティクスでは、株式会社サトーが提供する倉庫の経路案内ソリューション「Visual Warehouse®」を導入。「Visual Warehouse®」はピッキングの経路における最短距離を「画像」と「音声」で指示するナビゲーションシステムで、作業者のスタートからゴールまでの最適動線を仮想マップ上で割り出して指示します。本システムにより、経験の浅い作業者でもベテランと同等の作業効率を実現。作業者の1時間あたりのピッキング行数は、システム導入前に比べ改善され約23%の生産性の向上が可能となりました。





総合物流ソリューションの提供

## GOAL® (GO Advanced Logistics)

佐川急便が中心となってグループ横断の先進的ロジスティクスプロジェクトチーム「GOAL®」を組織し、お客さまの物流課題解決に取り組んでいます。「GOAL®」は全国各地でチームを編成し約200名が所属。その提案領域は幅広く、さまざまな業態で顧客の課題解決に努めています。海外からの原材料・部品の調達から国内店舗への配送に至るまで、サプライチェーン全体をカバーし、さらに、物の流れを一元管理するシステムの構築や、企業・個人双方への幅広い決済サービスの提供なども行っています。今後も「GOAL®」の活躍を通じて、物流インフラをさらに拡充していきます。

先進的ロジスティクス  
プロジェクトチーム「ゴール」。



# GOAL

(GO Advanced Logistics)

## 物流効率化によるまちづくりへの貢献 館内物流

佐川急便とワールドサプライでは、施設に出入りする人・物・車・情報を一元管理する「館内物流」を、「GINZA SIX」「日本橋室町三井タワー」など141件で受託しています。施設への直納事業者の車両は、ビル周辺で渋滞を起こさないよう最適な流入台数に管理し、卸し場での駐車時間を最短にする必要があります。そこで当社グループでは、納品車両を事前登録制にしてスムーズな施設内の物流を実現しました。館内物流の導入により、施設周辺の交通渋滞が緩和され、環境負荷の低減にもつながっています。



## コミュニケーションの活性化に貢献 想いをつなぐ 電報サービス

佐川ヒューモニーでは、ネットで電報を申し込めるサービス「VERY CARD」を展開しています。利用される機会の多い慶弔用の電報のほか、ご就任・ご昇進祝いや誕生日、母の日など、あらゆる場面でご利用いただけるよう、カードタイプだけでなく、伝統工芸品やお花などのギフトがセットになった商品も用意しています。これにより、電報を単なる情報の伝達手段から、人から人への想いをつなぐツールに進化させることができました。グループの強みを活かしながら、さまざまなシーンにおいてコミュニケーションの活性化に日々貢献しています。





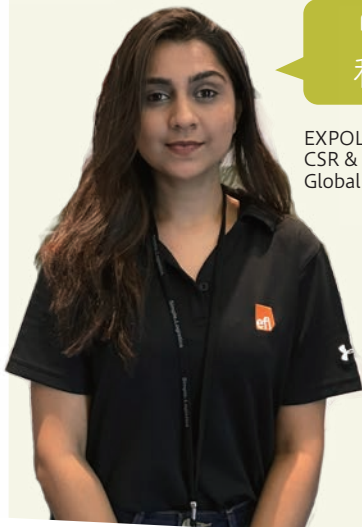
# 地域社会への貢献

SGホールディングスグループは、  
 25の国と地域において幅広くビジネスを展開しており、  
 事業基盤である地域社会を健全に保つことは  
 事業を持続的に継続していくためにも非常に重要です。  
 日本国内では少子高齢化対応と地方創生が喫緊の課題であると認識しています。  
 一方、海外では、新興国における貧富の差の解消が世界的な課題となっています。  
 また、国内外の事業を展開する地域において、自然災害への備えや、発生した災害に対する  
 支援などを行うことは、インフラを担う企業としての責務だと考えています。



## 海外の地域貢献活動

### スリランカの洪水被災者へ食糧を配給



「サステナビリティ」が  
 私たちのキーワードです

EXPOLANKA HOLDINGS PLC.  
 CSR & Sustainability Department  
 Global Lead-Sustainability サブリナ・ユスーフさん

エクスポランカグループは、2018年12月にスリランカ北部で発生した洪水被災者への支援を行いました。グループ4社から13名が集まり、車で10時間の道のりを経て1か月分の食糧を届けました。これは5年以上前に日本発の災害支援組織A-PAD\*の呼びかけに賛同して始まった活動で、私たちは日本との強い結び付きを感じています。今後はより持続的に社会に貢献していくため、チーム名を「サステナビリティ・イニシアティブ推進」とし、国立公園の長期にわたる緑化プロジェクトなど、グループの規模とネットワークを活かしたさまざまな活動に取り組んでいきます。

\*A-PAD(アジア パシフィック アライアンス)は、アジア太平洋地域のNGO・企業・政府による組織。日本からの拠出金を得てアジア各国へ災害支援のプラットフォームを展開している。



## 快適な旅行をサポート

### クルーズ船旅客手荷物輸送サービス

SGムービングはクルーズ船の旅客向けに手荷物輸送サービスを展開しています。これは、旅行者の手荷物を乗船時は自宅から乗船する港に輸送し客室まで届け、下船時は自宅まで配送するサービスで、日本発着のクルーズ船でトップシェアを有しています。佐川フィナンシャルの決済サービスで支払いを行い、佐川急便が荷物を集荷、SGムービングの倉庫で一時保管など、グループで連携したサービスを提供しています。今後は需要が増加する訪日外国人向けにも利便性の高いサービスの拡充を検討しています。







### 地域インフラの維持に貢献 貨客混載

佐川急便では、貨物と旅客の輸送や運行を一緒に行う貨客混載を推進しています。人口減や少子高齢化に伴う需要の低迷により、過疎地域では交通インフラの維持や労働力の確保が困難となっています。そこで、異なる輸送モード同士の輸送余力を活用した貨客混載を実施。トラック輸送の削減が、環境負荷低減だけでなく地域の生活基盤となるバス、鉄道などの交通インフラの継続的維持にも貢献しています。2017年度までの鉄道、バス、乗合タクシーに加えて、2018年度は乗用タクシーでの集配も開始しています。



### 被災自治体の復興支援 地域防災

佐川急便では、2019年5月末現在、75の自治体・団体と災害協定を締結しており、2018年度は11の自治体・団体の訓練に参加協力しました。また、緊急支援物資の輸送や被災地の各避難所への物資の配送など、災害発生時の被災地支援活動も積極的に行っています。2018年7月には、西日本豪雨で被害を受けた広島県三原市において、41日間にわたって災害復興支援を実施。支援物資の移送や管理、配送、コールセンターのサポート業務などを担うことで、被災自治体の復興支援を円滑に進めることができました。



### 次世代育成教育の取り組み スポーツ支援

SGホールディングスグループでは、「全国高等学校駅伝競走大会」への協賛などスポーツを通じた次世代育成教育に取り組んでいます。滋賀県守山市にはスポーツ施設を保有し、小学生を対象にした「SGホールディングスキッズスポーツキャンプ」の開催など、各種取り組みに活用しています。また、佐川急便では「SAGAWA SHIGAフットボールアカデミー」を主宰しており、未就学児から中学生までを対象にサッカースクールの運営や、守山市内の幼稚園での訪問キッズサッカーを開催しています。



# 外郭団体の活動

公益財団法人SGH財団および公益財団法人佐川美術館の社会貢献活動をご紹介します。

## ■ 公益財団法人SGH財団

経済・産業、教育・文化、医療・福祉などの振興・発展を図るための研究および事業への助成などを行っています。これは、国際的で活力ある社会の創造に向け、多面的かつ幅広く社会活動に寄与することを目的とした活動です。

### 留学生奨学支援

東南アジア諸国からの私費留学生に対して、奨学支援を行っています。1986年に開始した本事業は33期目を迎え、2018年度は国公私立各大学から109名の応募があり、16名を奨学生として採用しました。留学生たちには月額12万円の奨学金を2年間支給し、勉学に役立ててもらっています。奨学金支給とともに、交流会や同窓会も開催しており、日本での留学生活がより豊かなものになるように努めています。



奨学生採用証書授与式の様子

### がん研究振興

がん研究ならびにがん看護研究に対する助成や褒賞などの支援事業を行っています。30期目を迎えた2018年度は、全国の研究機関より申請のあった198件の中から15件に対して助成を行いました。また、がんの研究ならびに看護の発展に顕著な功績を挙げ、かつ今後の発展が期待される方々に対しては、SGH特別賞・SGH看護特別賞を贈呈しています。

### 2018年度の助成実績

第30回 SGHがん研究助成	15件(1,500万円)
第16回 SGH特別賞	2件(1,000万円)
第16回 SGH看護特別賞	2件(200万円)

### 国際経済協力

物流に関する人材の育成を目的に、日本国内への研修生の受け入れや海外への専門家の派遣といった支援事業を行っています。2018年度は、中華人民共和国で物流を専攻する大学生10名を日本へ招聘し、物流人材育成支援研修を実施。また、ラオスで大学生55名と社会人25名の計80名、ベトナム社会主義共和国で学生138名を対象に、日本の物流の専門的な知識や管理手法を学ぶ物流集中講義も実施しました。



ベトナム・ホーチミン大学での講義風景

## ■ 公益財団法人佐川美術館(2019年10月より公益財団法人SGH文化スポーツ振興財団へ名称変更)

滋賀県守山市にある佐川美術館は、2018年度で開館20周年を迎え、日本画家の平山郁夫や彫刻家の佐藤忠良、陶芸家の15代楽吉左衛門の常設企画展示を柱に、さまざまな特別企画展を開催しています。また、守山市との協働事業や教育普及活動として、滋賀県内の福祉介護施設ご利用者さまを無料で招待する「福祉の日」や、市内の公立小学校の児童にむけた芸術鑑賞教室の開催なども実施。このような取り組みを通して、地域住民の芸術に対する理解と愛着を深める一助となることを目指しています。



福祉の日 会場風景

# SGホールディングスグループについて

当社グループは、純粋持ち株会社であるSGホールディングス株式会社と連結子会社100社、持分法適用関連会社8社の計109社で構成される総合物流企業グループです。

SGホールディングス株式会社は、SGホールディングスグループの純粋持ち株会社として、グループ全体の「経営戦略策定・管理機能」を有しています。

SGホールディングス株式会社は2017年12月に東京証券取引市場第一部に上場いたしました。

商号 SGホールディングス株式会社 (SG Holdings Co., Ltd.)

設立年月 2006年3月

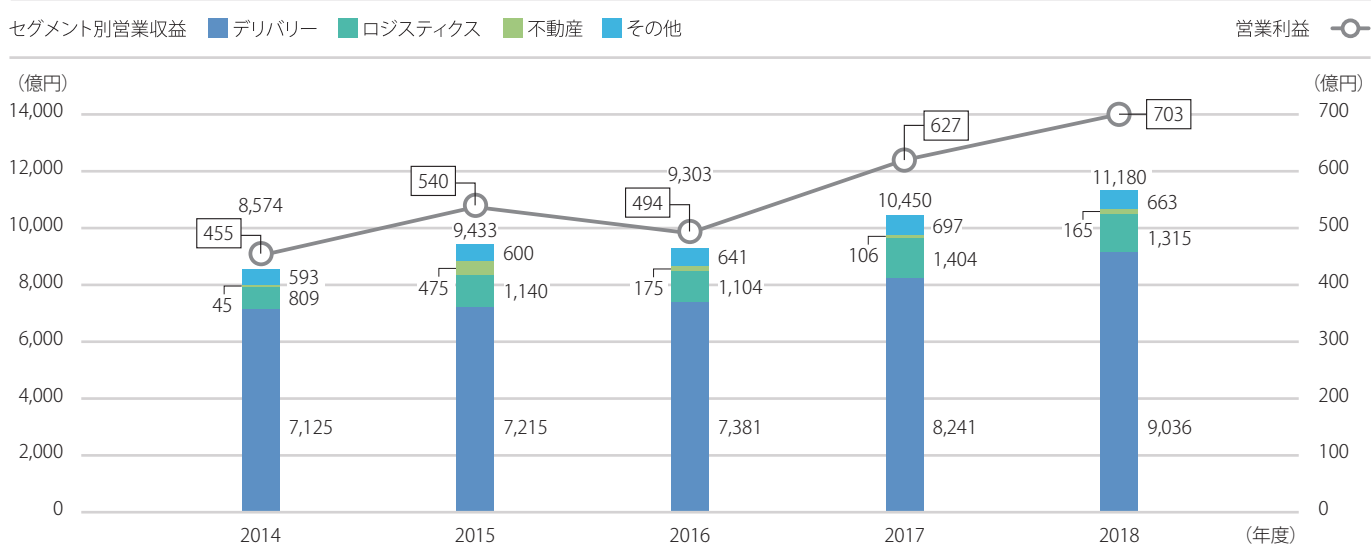
所在地 京都市南区上鳥羽角田町68番地

資本金 11,882百万円

従業員数 96,048人(2019年3月31日現在)

事業内容 グループ経営戦略策定・管理並びにそれらに付帯する業務

## 連結業績(2018年度)

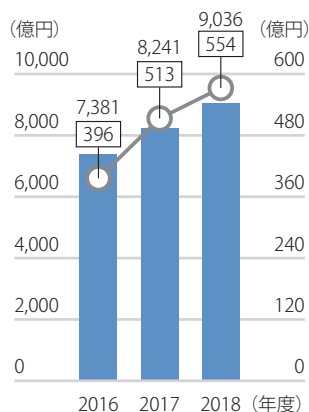


※2017年度より決算日を3月20日から3月31日に変更しています。

## セグメント別業績

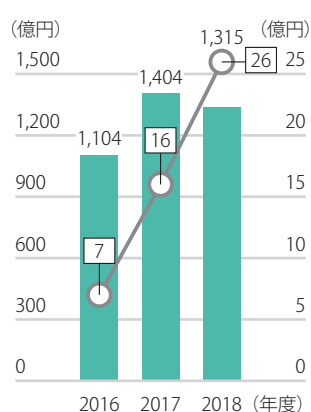
### デリバリー事業

■ 営業収益 ○ 営業利益



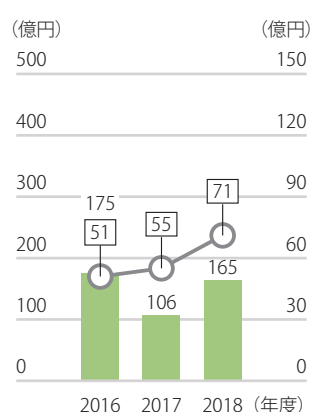
### ロジスティクス事業

■ 営業収益 ○ 営業利益



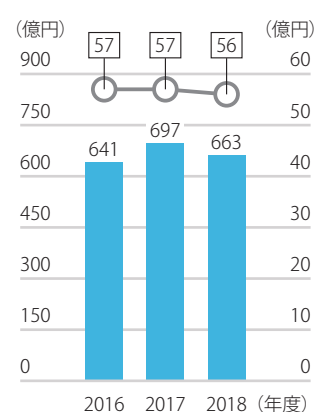
### 不動産事業

■ 営業収益 ○ 営業利益



### その他の事業

■ 営業収益 ○ 営業利益



# 事業概要・主な国内事業会社

当社グループは、純粋持株会社の当社と、連結子会社100社、持分法適用関連会社8社で構成されています。from Bに注力した事業展開を行い、法人顧客のさまざまなニーズに対応可能な配送網を構築しています。グループ各社の有するリソースを活用し、顧客の物流課題解決に向けた提案活動を実施しています。こうした取り組みを今後も強化・推進し、選ばれ続ける総合物流企業グループを目指します。

## デリバリー事業

日本全国に広がる配送網を持ち、宅配便を中心とした各種輸送サービスを提供しています。



### SAGAWA

佐川急便

宅配便を中心に幅広いデリバリーサービスを提供しています。



### Sg humony

佐川ヒューモニー

電報類似サービス事業を展開しています。



### Sg moving

SGムービング

大型家具・家電の設置事業や事務所の移転事業を中心としたサービスを提供しています。



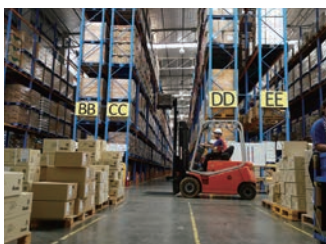
### WORLD SUPPLY

ワールドサプライ

百貨店などへの納品代行業業、3PL事業、食品共同配送などを展開しています。

## ロジスティクス事業

オーダーメイドの倉庫運営や国際輸送、海外現地物流の提供により、国内外一貫でお客さまのサプライチェーン最適化を行っています。



### Sg logistics

佐川グローバルロジスティクス

3PL事業、物流加工事業などを通じて、サプライチェーンの最適化を実現しています。



### SgH GLOBAL

SGHグローバル・ジャパン

国際物流から、物流倉庫業務、国内輸送まで国際一貫輸送を提供しています。

## 不動産事業

グループの事業インフラである物流施設などを中心に不動産の開発・活用・管理を行っています。



### Sg realty Sg assetmax

SGリアルティ SGアセットマックス

物流施設などの開発・活用・管理を行っています。

## その他の事業

車両整備、ITシステム、ファイナンス、人材派遣など、  
中核事業をサポートする分野でも、グループ各社が多彩な事業を展開しています。



**Sg advance**

佐川アドバンス

保険販売事業、燃料販売事業、企画販売事業などを行う総合サービス企業です。



**Sg motors**

SGモータース

車両整備やボディ製造、新車・中古車販売などの事業を展開しています。



**Sg systems**

SGシステム

国内最大級の貨物追跡システムやAIを使ったシステムの開発・運用などの事業を展開しています。



**Sg financial**

佐川フィナンシャル

[e-コレクト®]サービスなどファイナンス事業を展開しています。



**Sg fielder**

SGフィルダー

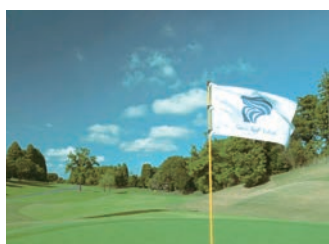
庫内業務などの人材アウトソーシングサービスを提供しています。



**Sg expert**

SGエキスパート

グループの総務や人事、経理などの管理業務を集約しています。



ヌーヴェルゴルフ倶楽部

千葉県大網白里市で、自然との調和を大切にしたゴルフ場を運営しています。



**Sg forestry**

佐川林業

高知県内・徳島県内に所有する計7か所の森林の育成・保全・管理を行っています。

# 海外法人



シンガポールに「SG HOLDINGS GLOBAL」を設置し、海外事業の統括を行っています。  
東アジアでは、お客さまに代わり輸出入貨物の輸送手配および税関手続きなどを行う  
フレイト・フォワーディング事業をはじめ、中国の深センや香港に自社倉庫を構え、  
高品質なロジスティクス事業を展開。また日本の佐川急便と連携した国際宅配便サービスや、  
越境通販貨物の戸口までの一貫した輸送手配などを展開しています。東南アジアでは主要国に拠点を構え、  
自社倉庫を基点とした、川上から川下までの総合物流サービスを展開しています。  
南アジアでは、EXPOLANKA HOLDINGS PLC(スリランカ本社)を中心に、  
インド国内に約20拠点を有し、フレイト・フォワーディング事業を展開しています。  
バングラデシュ・中東・アフリカなどにも拠点ネットワークを構築し、  
北米・欧州向けの製品輸送に強みを持っています。

## 海外事業統括

---

SG HOLDINGS GLOBAL

## 東アジア

---

天津保利佐川国際貿易

上海保利佐川物流

保利佐川物流

佐川急便(香港)

台湾佐川急便国際股份

SAGAWA LOGISTICS KOREA

EXPOFREIGHT (HONG KONG)

EXPOLANKA FREIGHT (SHANGHAI)

他

## 東南アジア

---

SAGAWA EXPRESS PHILIPPINES

SAGAWA GLOBAL LOGISTICS (PHILIPPINES)

SAGAWA EXPRESS (THAILAND)

SG SAGAWA (THAILAND)

SAGAWA EXPRESS VIETNAM

SG SAGAWA VIETNAM

SG SAGAWA EXPRESS VIETNAM

EFL MALAYSIA

SG SAGAWA AMERIOD

AMGAS ASIA

EXPOLANKA FREIGHT (VIETNAM)

PT. EXPO FREIGHT INDONESIA

EXPOLANKA FREIGHT (PHILIPPINES)

EXPOLANKA FREIGHT (CAMBODIA)

他

## 南アジア・西アジア

---

EXPOLANKA HOLDINGS

EXPOLANKA FREIGHT [SRI LANKA]

EXPO FREIGHT [INDIA]

EXPOLANKA BANGLADESH

EXPOLANKA FREIGHT DUBAI

UNION CARGO [PAKISTAN]

CLASSIC TRAVEL

他

## アメリカ

---

SG SAGAWA USA

EXPOLANKA USA

他

## アフリカ

---

EXPOLANKA FREIGHT [SOUTH AFRICA]

EXPOLANKA FREIGHT (KENYA)

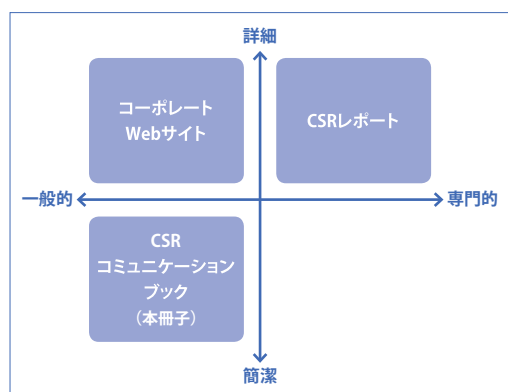
EXPOLANKA FREIGHT (MAURITIUS)

EXPOLANKA MADAGASCAR

他

SGホールディングスグループでは、CSRに関する情報開示として、本CSRコミュニケーションブックに加えて、CSRレポートとコーポレートWebサイトを活用しています。

CSRレポートは当社グループのCSRに関する考え方と取り組み、実績をまとめて掲載しており、CSRコミュニケーションブックでは、その中から一般の生活者ならびに多くのステークホルダーの方々に向けて、特にお伝えしたい取り組みを抜粋して掲載しています。コーポレートWebサイトではCSRに関する総合的な情報開示を行っています。



#### 報告対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日

※報告期間が異なる場合は都度明記しています。

#### Webサイトによるコミュニケーション

SGホールディングス コーポレートサイト

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

株主・投資家情報

<http://www.sg-hldgs.co.jp/finance/>

#### SGホールディングス株式会社

〒601-8104

京都市南区上鳥羽角田町68番地

TEL 075-671-8600

<http://www.sg-hldgs.co.jp/>

タイトル — CSRコミュニケーションブック2019

発行日 — 2019年11月